

論文試験は「書き出し3行」が大事。昇任試験の受験者に、僕がよく言っている言葉だ。書き出した一文が思いつかないせいで一向に筆が進まないという受験者が、実は少なくない。区役所在職中の僕は、この時期になると決まって論文の添削マシンと化した。多い時は10本以上の論文を抱えて週末は書齋にこもるのがライフワークともなっていたが、無事に昇任を果たした彼らが職場で活躍している姿を見るのは誠にうれしいものだった。論文に個性はいらぬという指導をしている上司もいるらしいが、論文にも個性はあってよいと僕は考えている。どこか

で見たような使い古されたフリーズやどこから借りてきたような陳腐化している言葉だ。書き出した一文が思いつかないせいで一向に筆が進まないという受験者が、実は少なくない。区役所在職中の僕は、この時期になると決まって論文の添削マシンと化した。多い時は10本以上の論文を抱えて週末は書齋にこもるのがライフワークともなっていたが、無事に昇任を果たした彼らが職場で活躍している姿を見るのは誠にうれしいものだった。論文に個性はいらぬという指導をしている上司もいるらしいが、論文にも個性はあってよいと僕は考えている。どこか

「拙著『合格論文の極意』(学陽書房)には、「書き出し3行でライバルに差をつける」という項を設けた。ベテランの採点官は、書き出し部分の3行を読んだだけで受験者の力量を推し量ることができる。例えば、「効率的な行政運営」が出題テーマだったとする。試験当日、多くの受験者は次のような書き出しの答案を提出する。「少子高齢化の進展や気候変動の影響などにより行政需要が増大している中、生産年齢人口の減少に伴い税収が減少しており、本区の財政状況は厳しさを増している」。このような紋切り型の論文を100本も

書き出しの妙味

読まれたとしたら、採点官はどのような気持ちになるだろうか、容易に想像できるはずだ。一方で、一発で合格できる骨のある論文は書き出しも秀逸だ。職場のエピソードを惜しみなく披露したり、社会的に注目されている旬の数値データを引用したりしながら出題テーマの背景を深掘りし、鋭い感性で理想と現実のギャップを突いてくるから、採点官の心にも響く。例えば、過去の

合格者は次のように書いた。「86・9%という数字がある。これは本区の経常収支比率である」。単刀直入で極めて唐突な書き出しではあるが、出題テーマの背景にスバリと切り込んだ実に軽やかな1行ではないか。書き出し3行の大切さは、名作に学びたい。「小説は書き出しが命」と言われているが、僕もそう信じている一人だ。書き出しで心をつかまれ

読まれたとしたら、ページをめくる手はとまらなくなるのが常になるだろうか、容易に想像できるはずだ。一方で、一発で合格できる骨のある論文は書き出しも秀逸だ。職場のエピソードを惜しみなく披露したり、社会的に注目されている旬の数値データを引用したりしながら出題テーマの背景を深掘りし、鋭い感性で理想と現実のギャップを突いてくるから、採点官の心にも響く。例えば、過去の

合格者は次のように書いた。「86・9%という数字がある。これは本区の経常収支比率である」。単刀直入で極めて唐突な書き出しではあるが、出題テーマの背景にスバリと切り込んだ実に軽やかな1行ではないか。書き出し3行の大切さは、名作に学びたい。「小説は書き出しが命」と言われているが、僕もそう信じている一人だ。書き出しで心をつかまれ

読まれたとしたら、ページをめくる手はとまらなくなるのが常になるだろうか、容易に想像できるはずだ。一方で、一発で合格できる骨のある論文は書き出しも秀逸だ。職場のエピソードを惜しみなく披露したり、社会的に注目されている旬の数値データを引用したりしながら出題テーマの背景を深掘りし、鋭い感性で理想と現実のギャップを突いてくるから、採点官の心にも響く。例えば、過去の